



睡眠姦妊娠

Vol3

「優奈とメイファン」

この作品はフィクションであり、実在する人物、地名、団体とは一切関係ありません。

前回までのあらすじ

洋介の母はクラブを経営している。
そのせいで、ホステスが家に住み込んだり
するのはよくあることだった。

洋介は幼い頃は年の離れた
ホステスを遊び相手としか
見ていなかった。

だが、精通を迎えてからは
ホステスを女として見るようにな
った。

ピッポユッ

そんな折

三四歳のホステス・智代が
住み込むことに――

洋介は智代に睡眠薬入りの
お茶を飲ませて、彼女を
前後不覚に陥らせ熟れた体に
イタズラを繰り返した。

やがて彼女は妊娠し
当時付き合っていた男性Aと
婚約。お店を辞めることに。

智代が去ってしばらくして
今度は白人女性・ナタリアが
居候することになった。

洋介は智代のときと同じく
ナタリアに眠剤を飲ませ、
その豊満なカラダを
好きなように扱った。

そしてナタリアは妊娠し、
洋介の元から
去ったのだった――



優奈
19歳
身長 160cm
B 92cm
W 59cm
H 89cm



メイファン

27歳

身長 167cm

B 94cm

W 60cm

H 92cm

放課後

洋介はまっすぐに
帰宅した。

カーンカーン
カーンカーン

今日もだるかったな…

ん

玄関には
見慣れない
女性用の靴が
二足あった。

母さんの友達か。
または母さんの
店で働いている
ホステスか……

耳を澄ますと――

女性の話し声が
聞こえた。

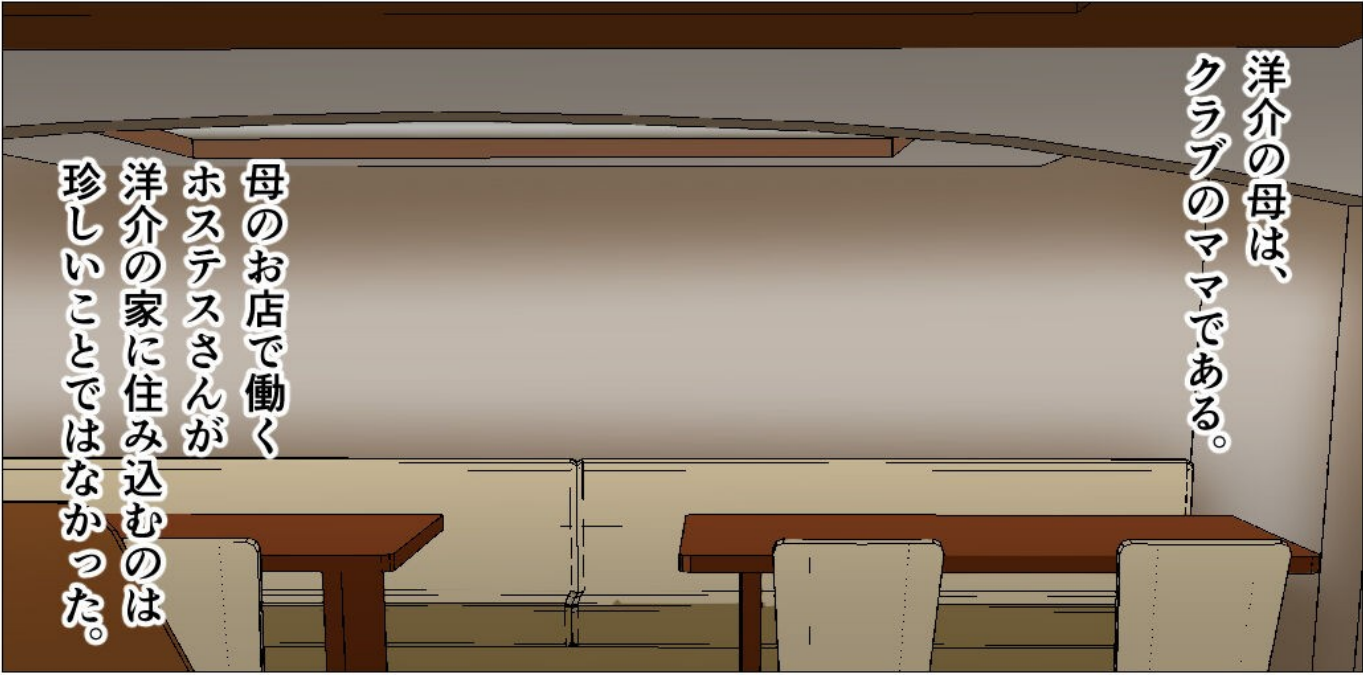
もしかしたら
住み込みのホステスさんかな。
けど二人も？

あらお帰り
洋介。
ちょうど良かった。

今日からしばらくの間
二人のお姉さんが
お家にお泊まりするから
紹介しておくね。

そ、そうなんだ。

二人同時は
初だな。

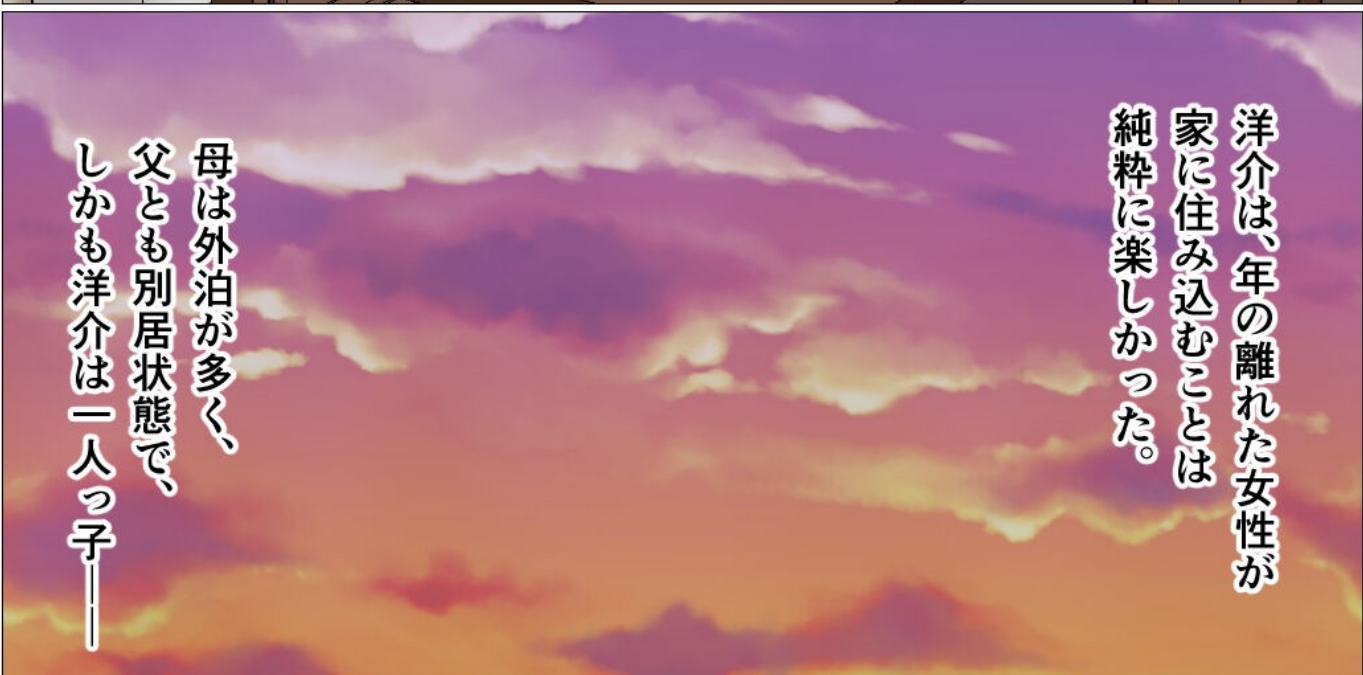


洋介の母は、
クラブのママである。

母のお店で働く
ホステスさんが
洋介の家に住み込むのは
珍しいことではなかった。



住み込むと言っても、
あくまで仮の住居で、
たいていは数週間で
アパートやマンションに
引っ越す。
洋介の家は、つなぎの場
みたいなものだった。



洋介は、年の離れた女性が
家に住み込むことは
純粹に楽しかった。

母は外泊が多く、
父とも別居状態で、
しかも洋介は一人っ子――



優奈は客室(洋室)を
使うことになり、

メイファンは和室を使う
ことになった。

優奈はすぐに
洋介と仲良くなり
よく一緒にゲームで遊んだ。

優奈は明るくて
無防備だった。

たぶん男として
見られてないのかな。

むっ



メイファンは優奈と違って
大人しい雰囲気だった。



彼女は難しい日本語は分からないから
時々、意思の疎通ができないこともあった。



メイファンの部屋はいつもキレイに
片付いていて、
ちりひとつ落ちていなかった。



これがメイファンのおパンツ……



このあとやっぱり
めっちゃめっちゃ
オナニーした。



優奈とメイファンの仲は
良くなかった。



また
喧嘩してる……

二人は些細なことで
よく言い争った。

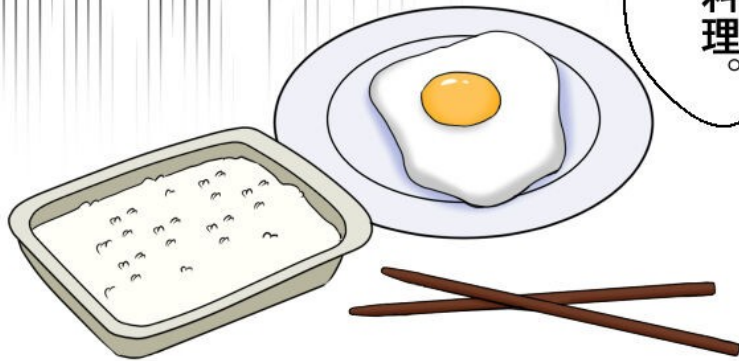


洋介は仲裁役だった。

まあまあ。

陰悪だった二人だが
ちよっとしたきっかけで
その関係は急速に
近づくことになる。

優奈の料理。



メイファンの
料理。



水餃子か。
中国っぽいよねー。

焼き餃子のほうが
好きだけど。

もぐもぐ

すごいおいしい！
この水餃子、
どこで買ってきたん？

……
ごくん

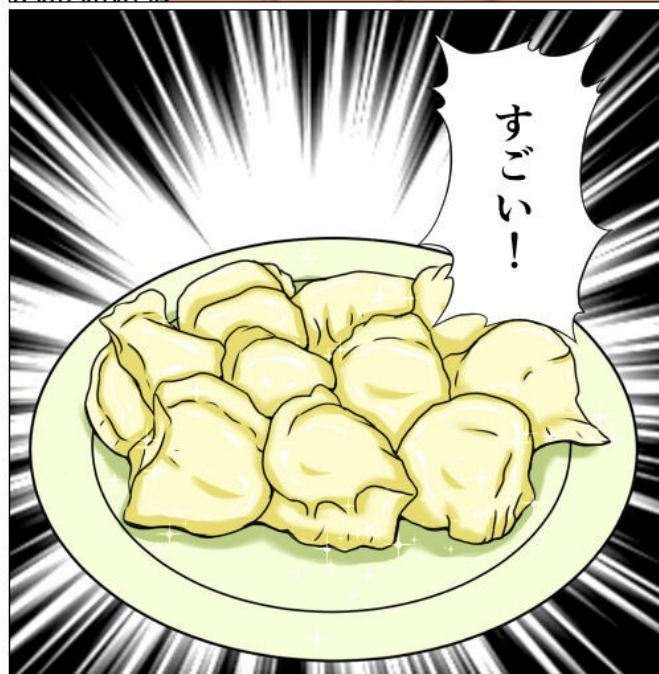




は？ 餃子を作ったの？



買ってない。
私が作っタ。



すげー！



こくん



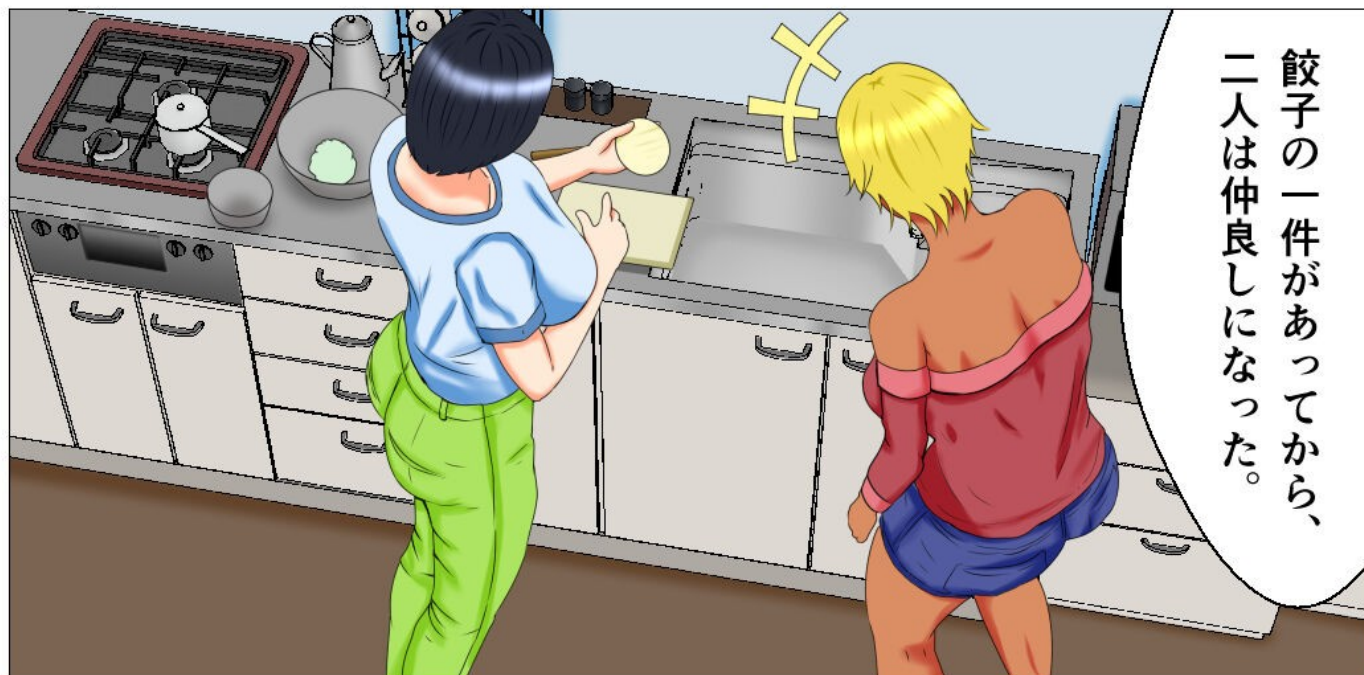
照れるネ。

ポツ

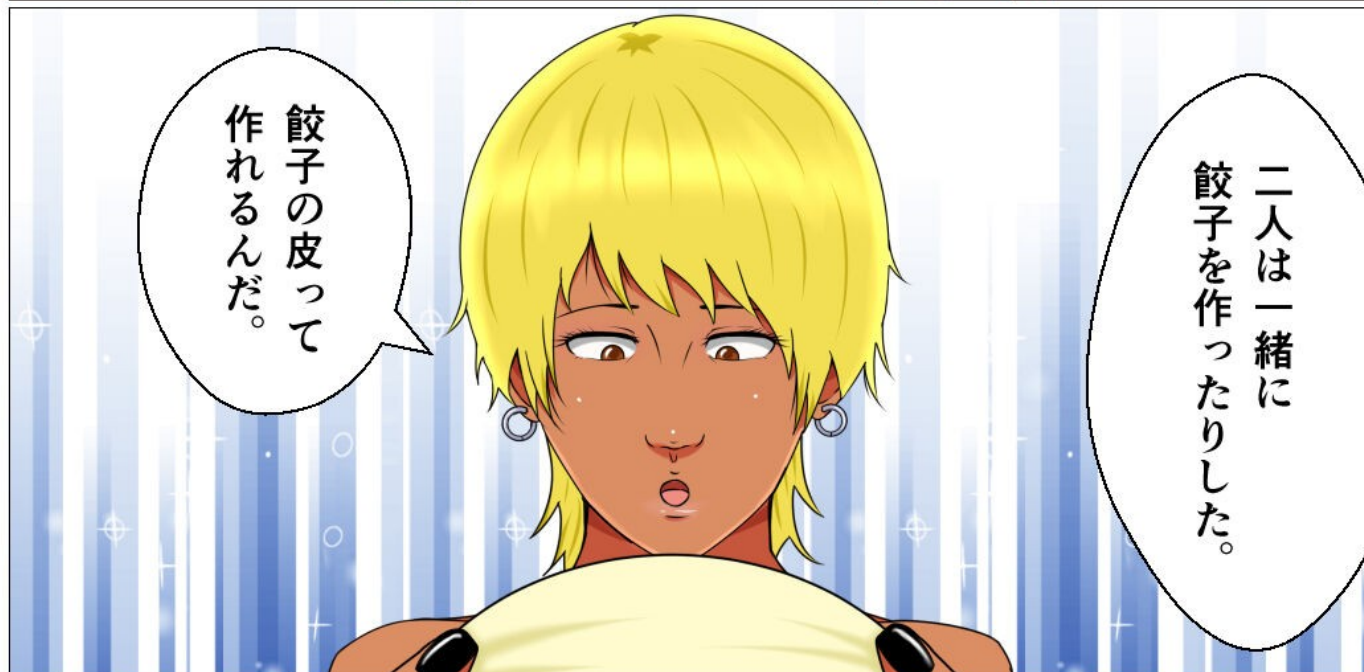


確かに餃子は
おいしかった。

もぐもぐ



餃子の一件があったから、
二人は仲良しになった。



二人は一緒に
餃子を作ったりした。

餃子の皮って
作れるんだ。



どちらもおいしいよ。

本当は優奈の
餃子はマズイ。



メイファンの
水餃子。



優奈の
水餃子。



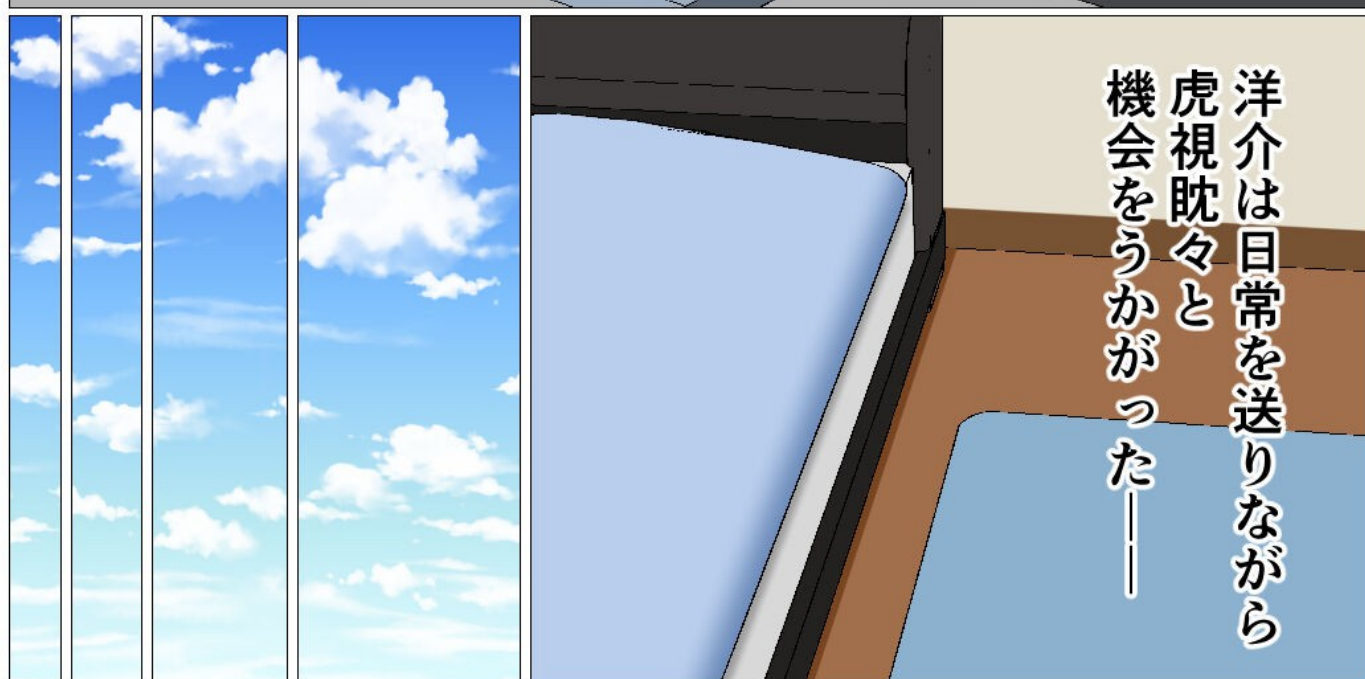
二人は共にお酒に強く
酔うことがあまりなかった。



二人が仲良くなって
良かったけど
それよりもどうやって
睡眠薬を飲ませるか……



母が外泊で
優奈もメイファンも
酔っていて、
睡眠導入剤を何かに
混ぜて飲ませることが
できれば――



洋介は日常を送りながら
虎視眈々と
機会をうかがった――

週末の夜、絶好の機会が
巡ってきた。

その夜、母から外泊するという
連絡があった。

優奈とメイファンは
二三時過ぎに帰ってきたが、
二人とも足下がおぼつかない
ぐらい酔っていた。

はははははは

洋介は、睡眠導入剤入りの
麦茶を冷蔵庫に準備していた。

二人は交互にシャワーを
浴びたようだった。

洋介は自室に籠もって、
優奈とメイファンの動向を
それとなく観察した。

このまま
寝たりするなよ。



洋介は
念を送った。

麦茶飲め麦茶飲め
麦茶飲め麦茶飲め



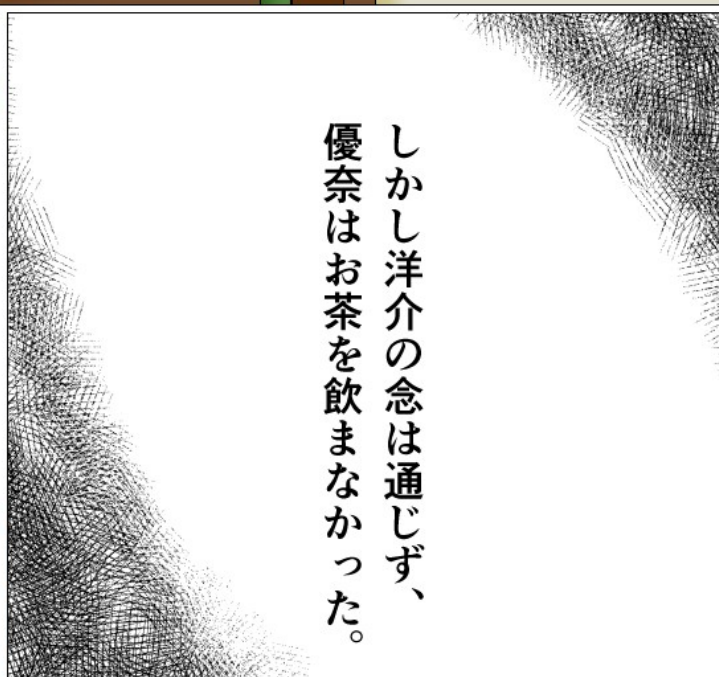
優奈は冷蔵庫を
物色していた。



洋介〜

優奈に突然呼ばれて
どきっとした。

どきん



しかし洋介の念は通じず、
優奈はお茶を飲まなかった。



お土産で焼き餃子があるよ。
一緒に食べよう。

お、起きてるよ。

寝てる〜?



そこにメイファンも加わって
深夜の夜食を囲むことになった。



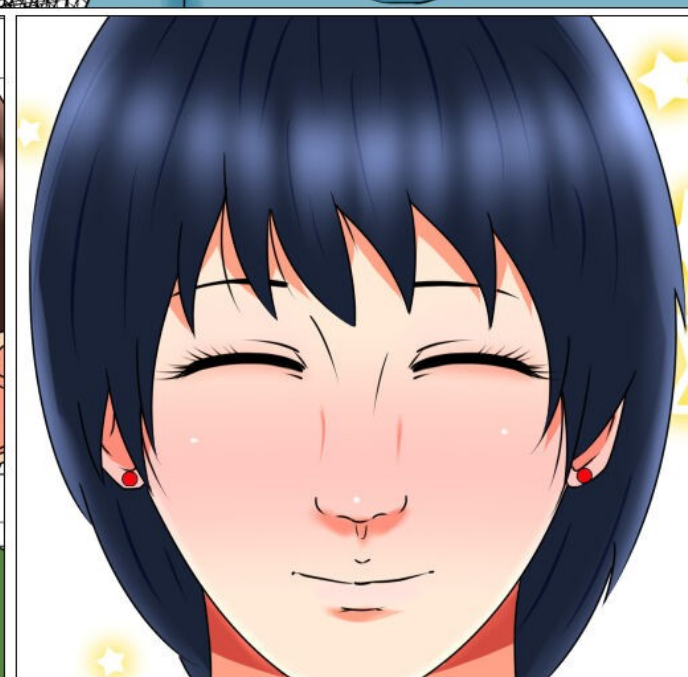
あー、メイファンの餃子の
ほうがおいしいね。

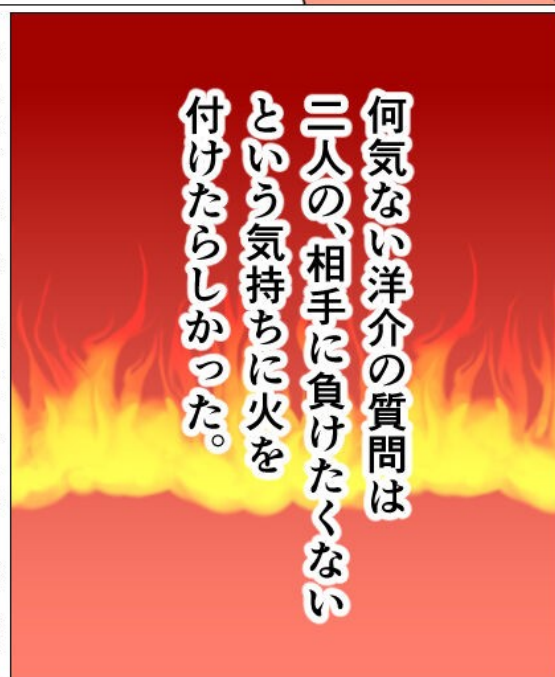


もぐもぐ



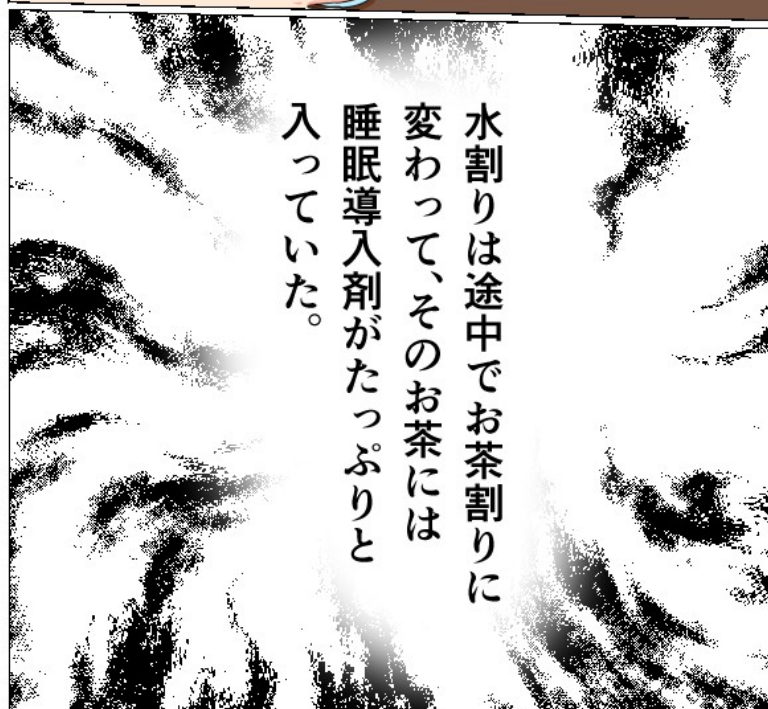
これはこれでうまいけど
何も言わないでおこう。







メイファンと優奈は
お酒をしこたま飲んだ。

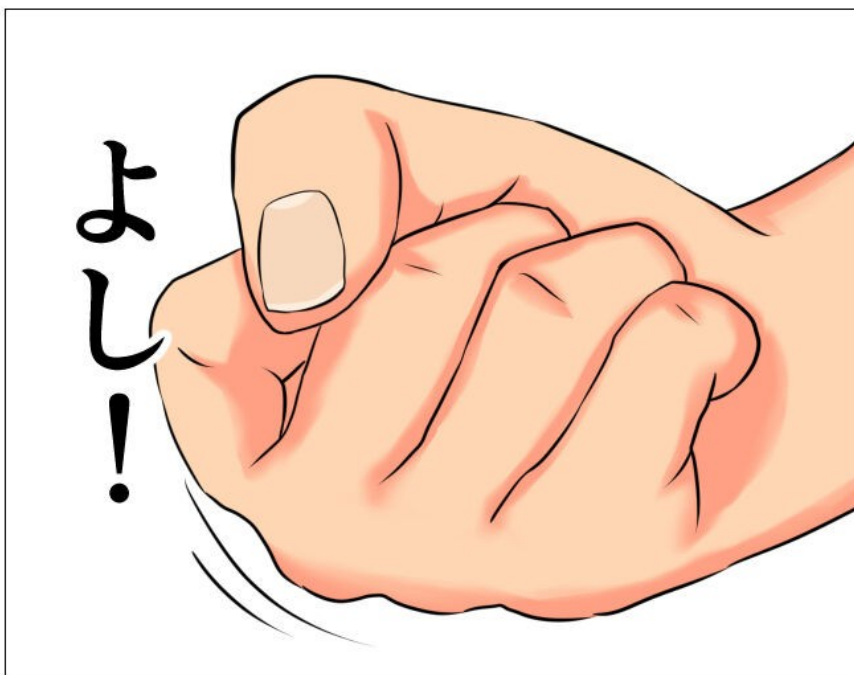


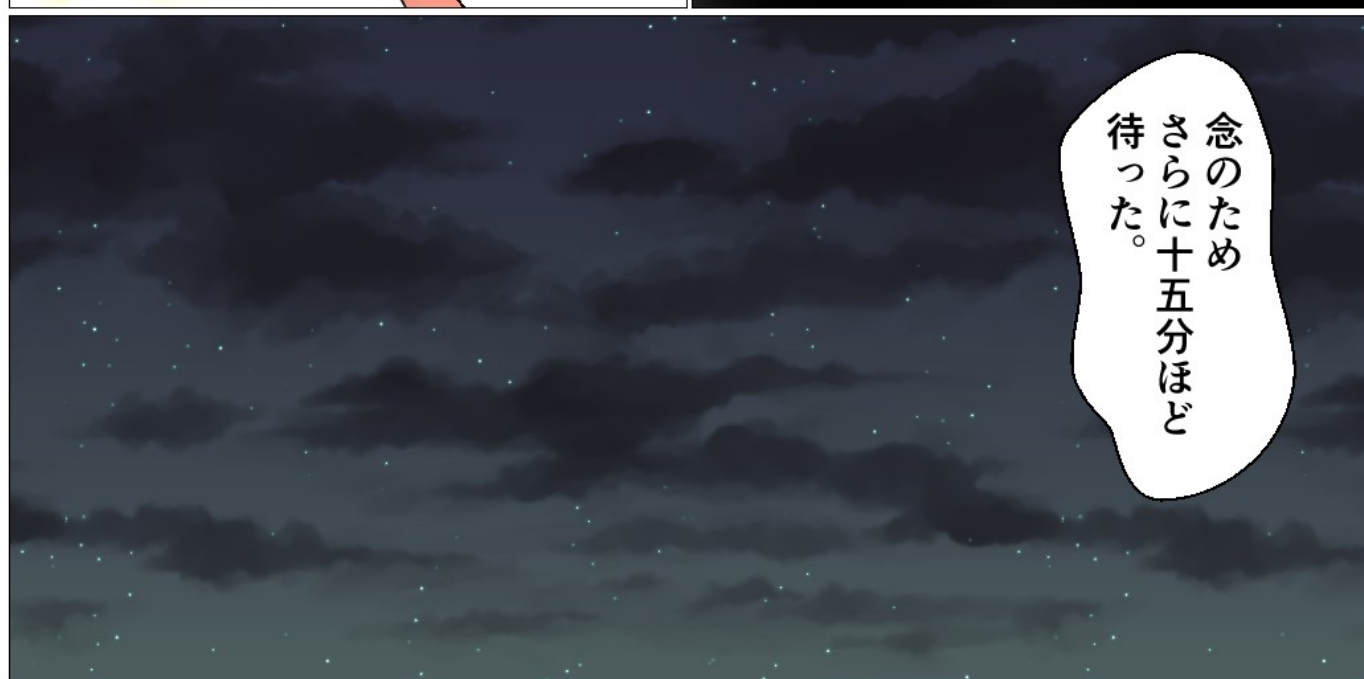
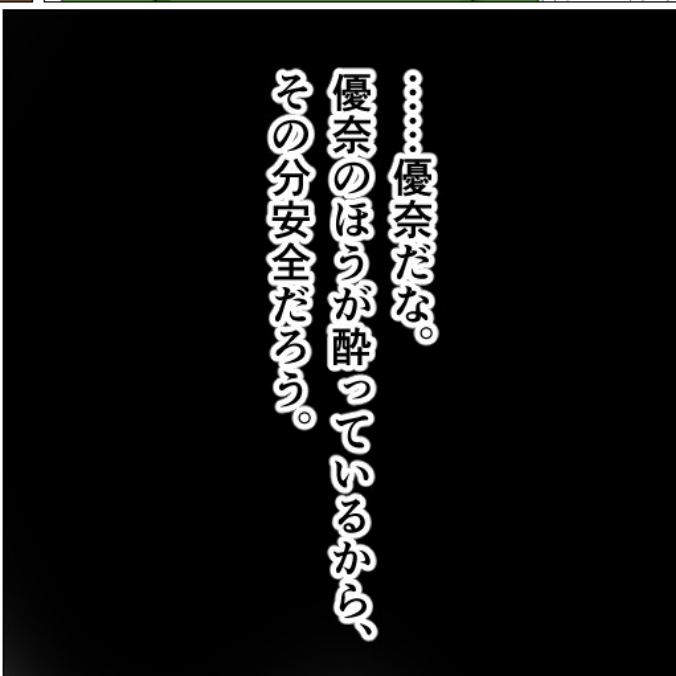
水割りは途中でお茶割りに
変わって、そのお茶には
睡眠導入剤がたっぷりと
入っていた。



二人が飲んだお酒は
ウイスキーで
最初は水割りだった。









寝息が聞こえる……



よし、
優奈の部屋に行こう。



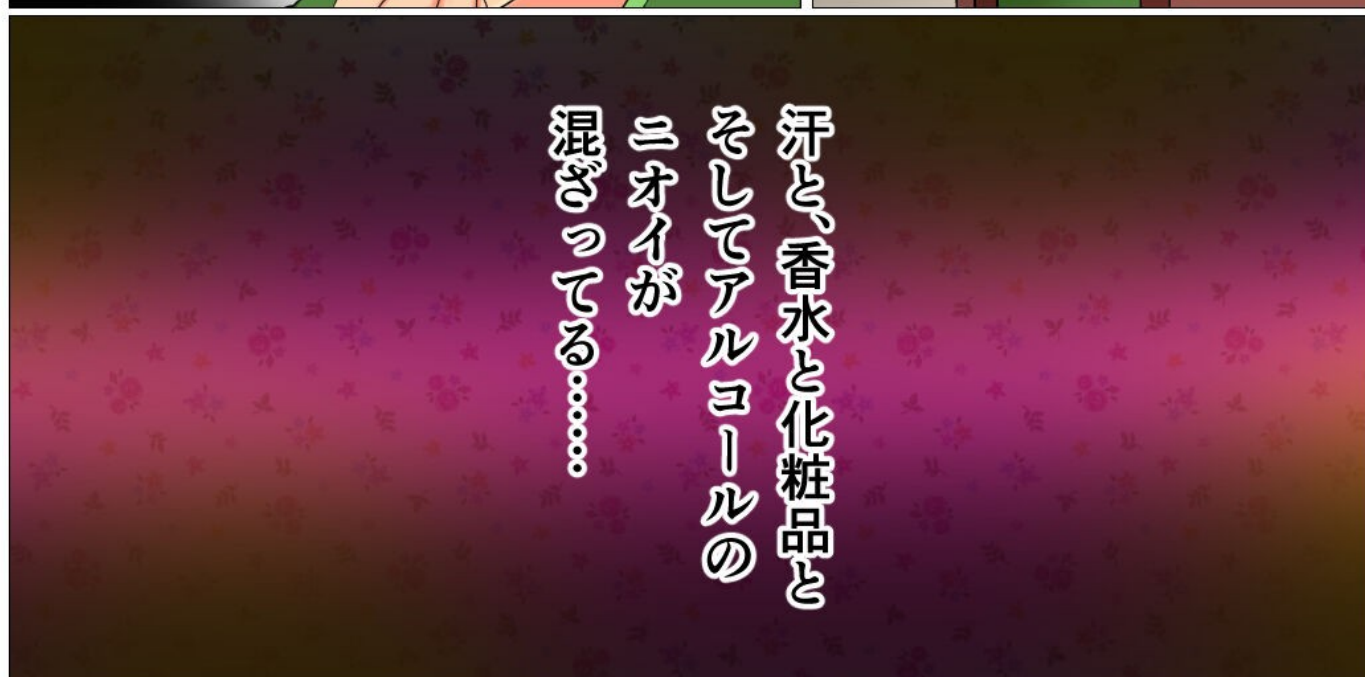
うわ、酒くさいな……

くん
くん

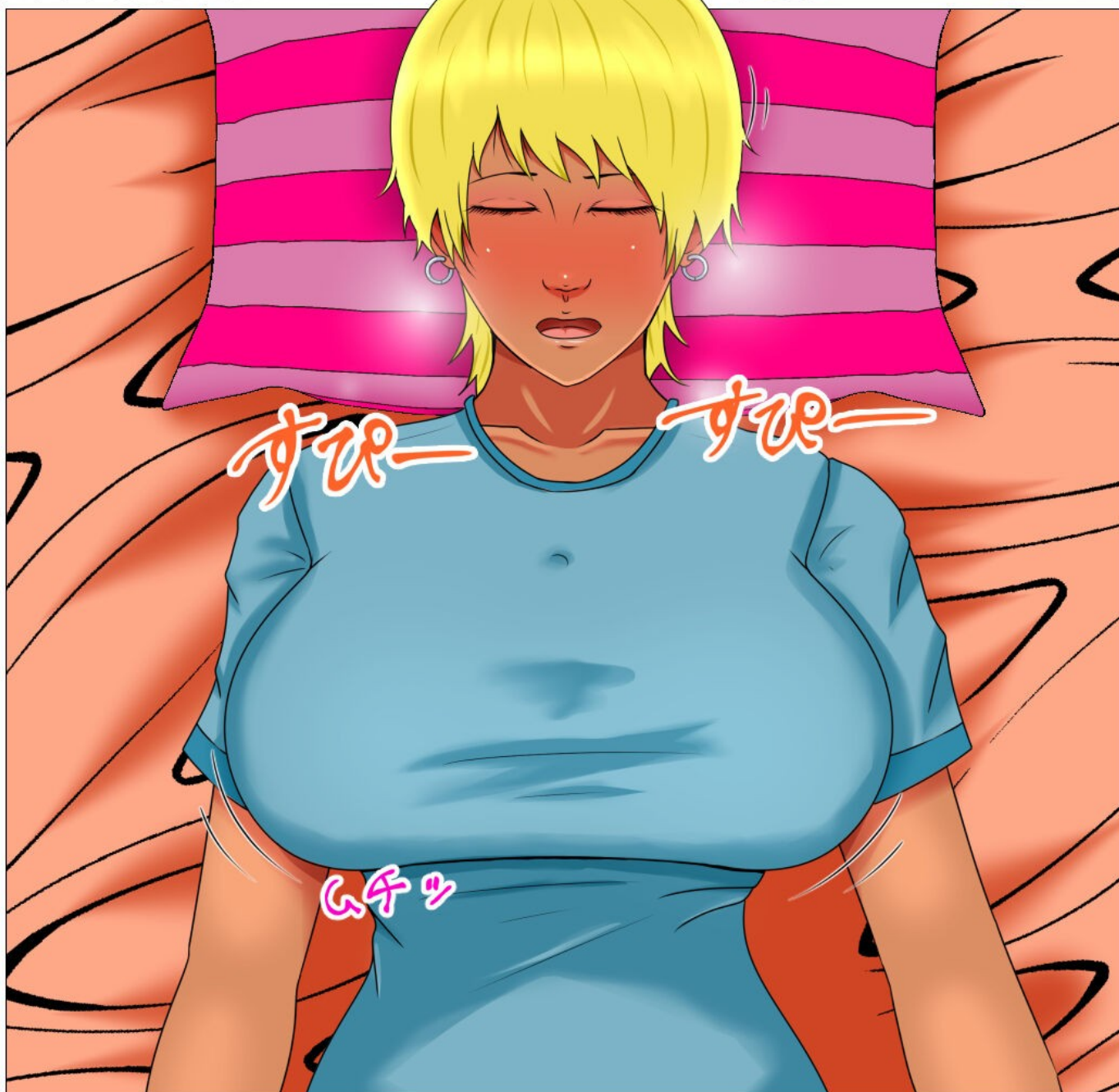


鍵はかかってない……

がちゃ



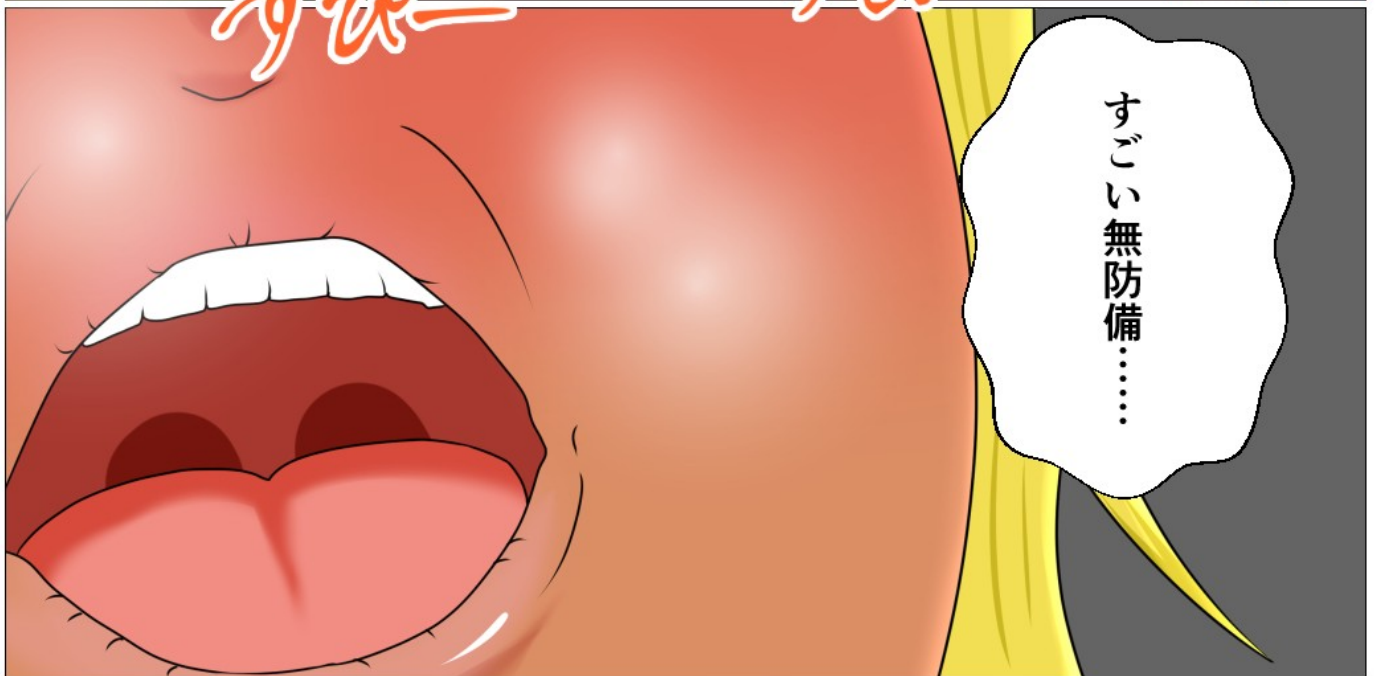
汗と、香水と化粧品と
そしてアルコールの
ニオイが
混ざってる……



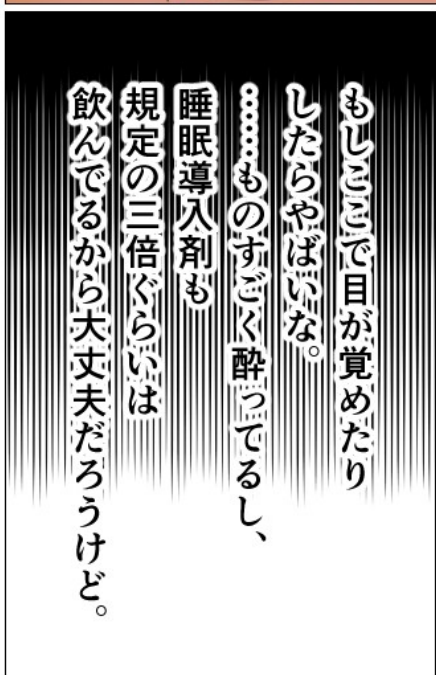


起きる気配なし。

すぴー すぴー



すごい無防備……



もしここで目が覚めたり
したらやばいな。
……ものすごく酔ってるし、
睡眠導入剤も
規定の三倍ぐらいは
飲んでるから大丈夫だろうけど。



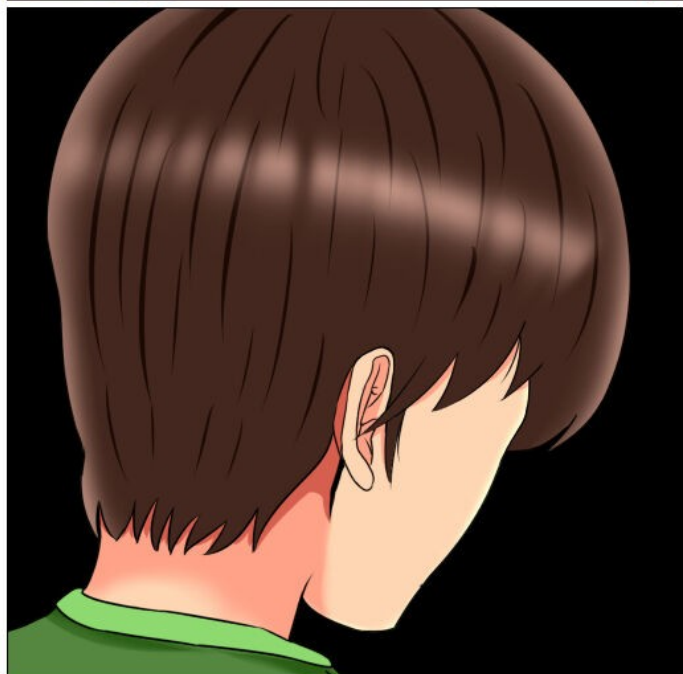
……



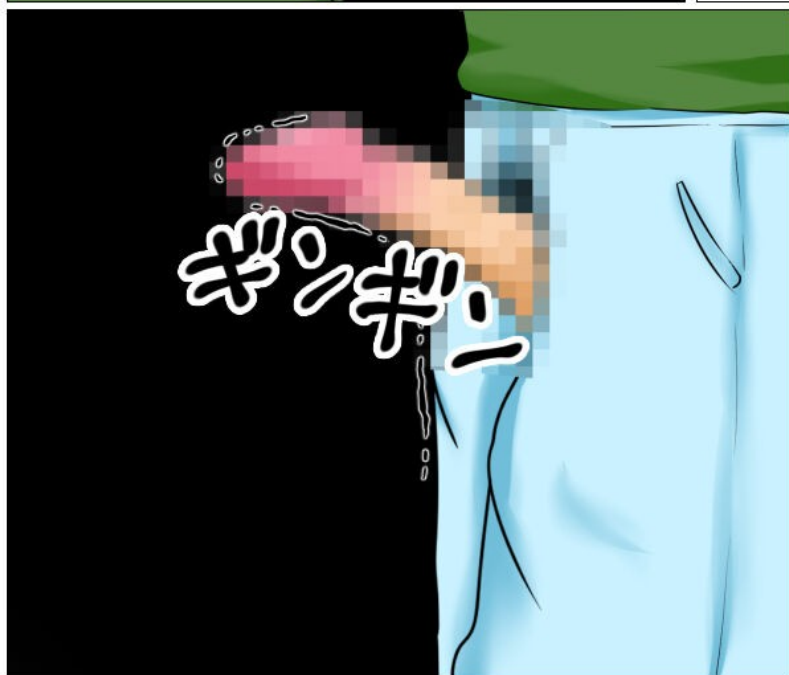
フアッ



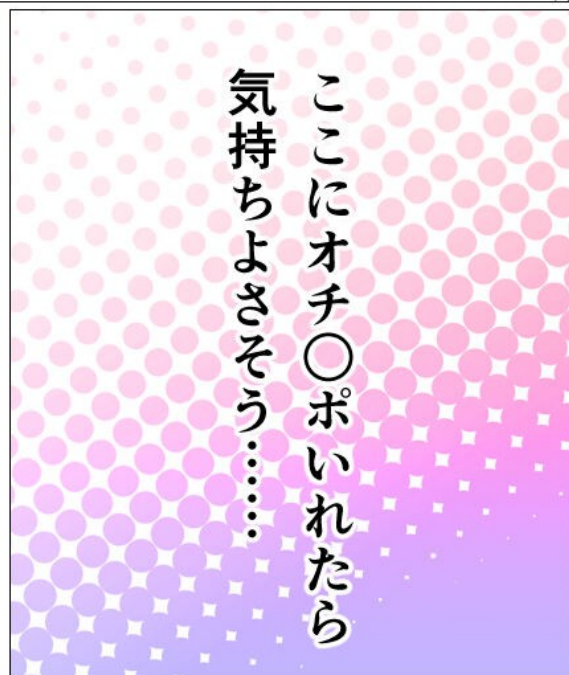
びろん



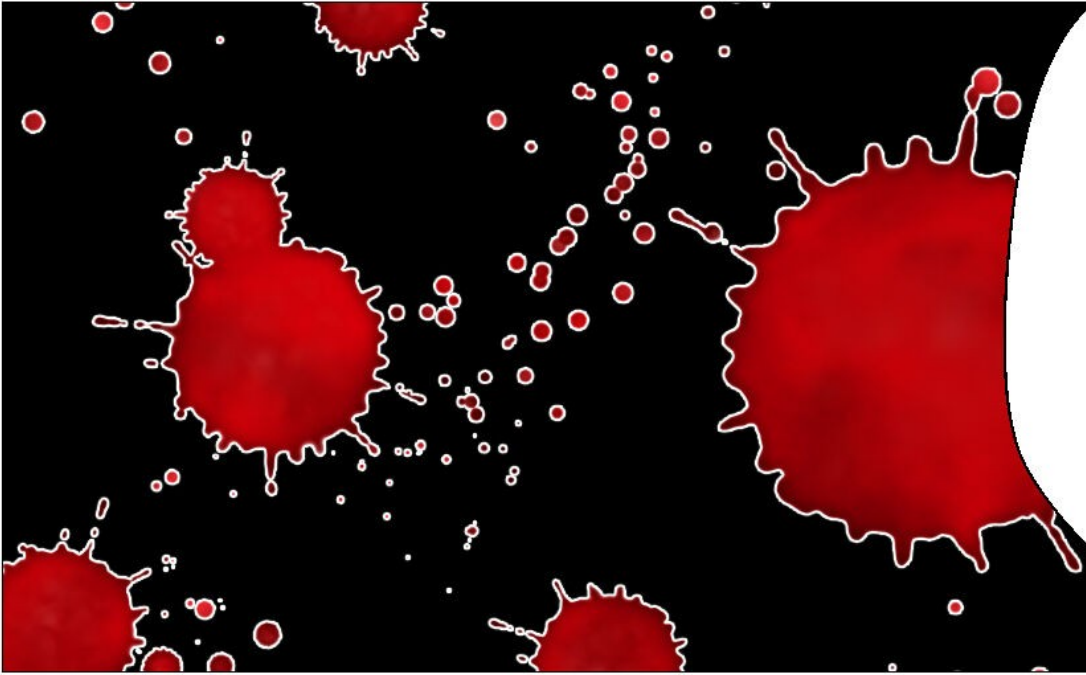
うわ、生温かい……



ギンギン



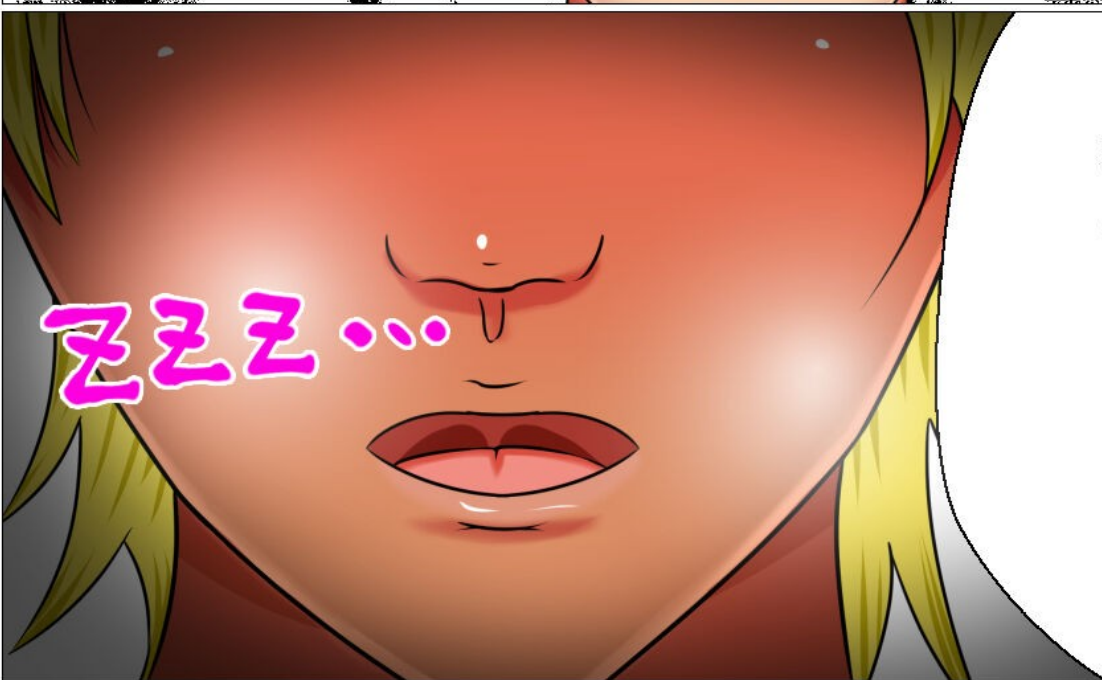
ここにオチ○ポいれたら
気持ちよさそう……



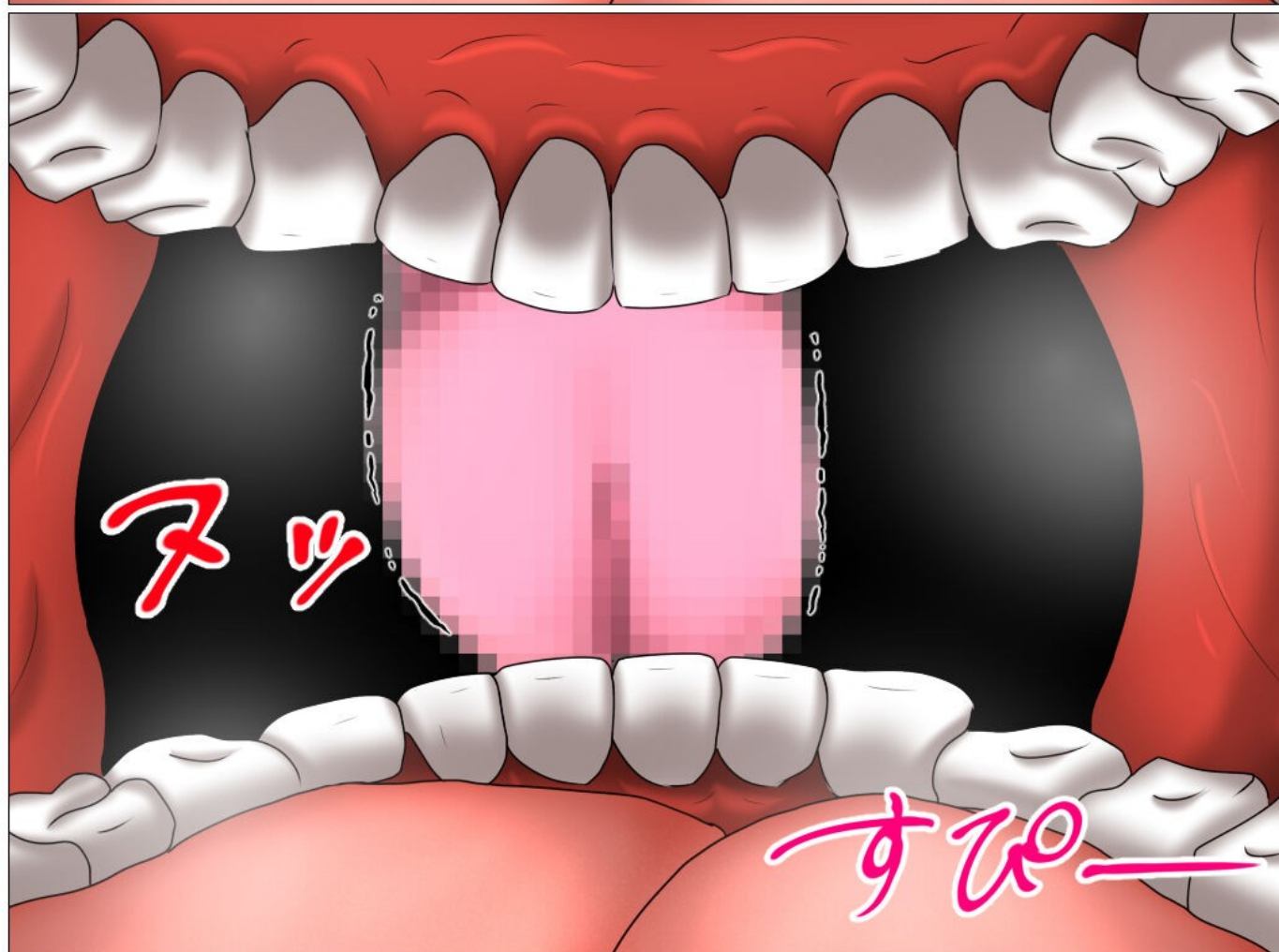
噛みつかれて
流血したら、
なんて言い訳する？

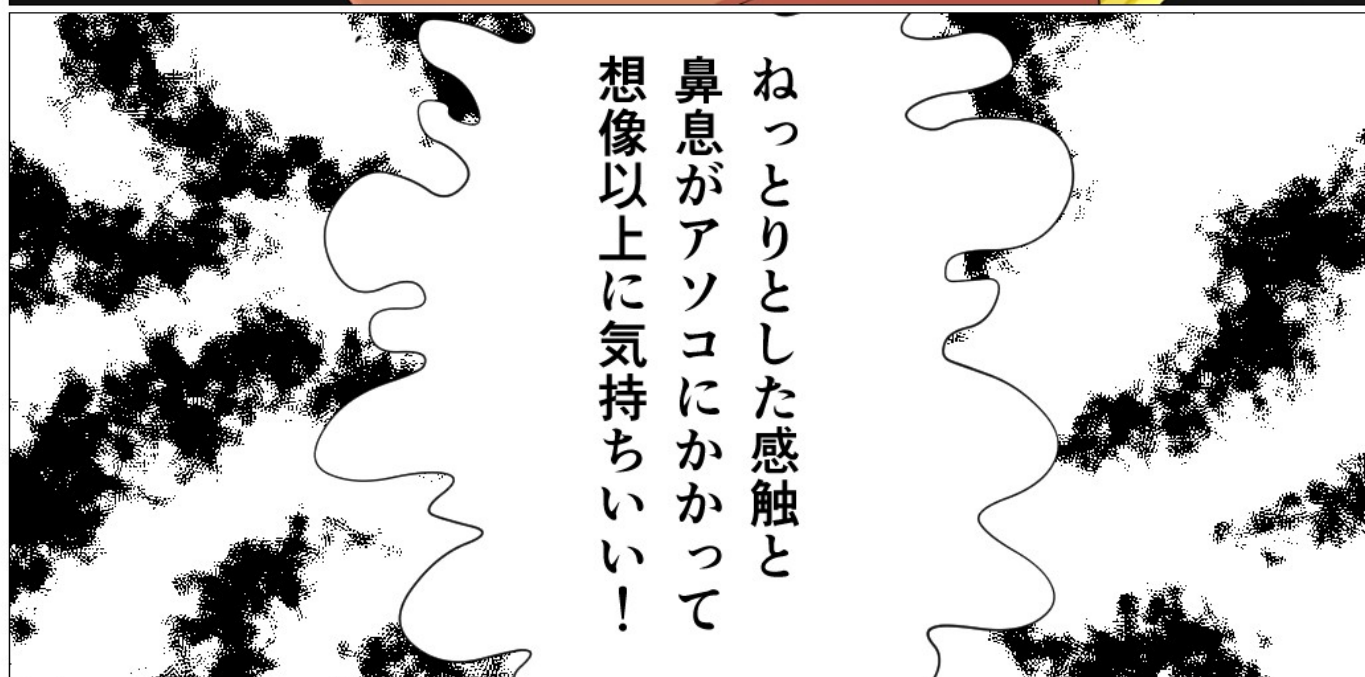
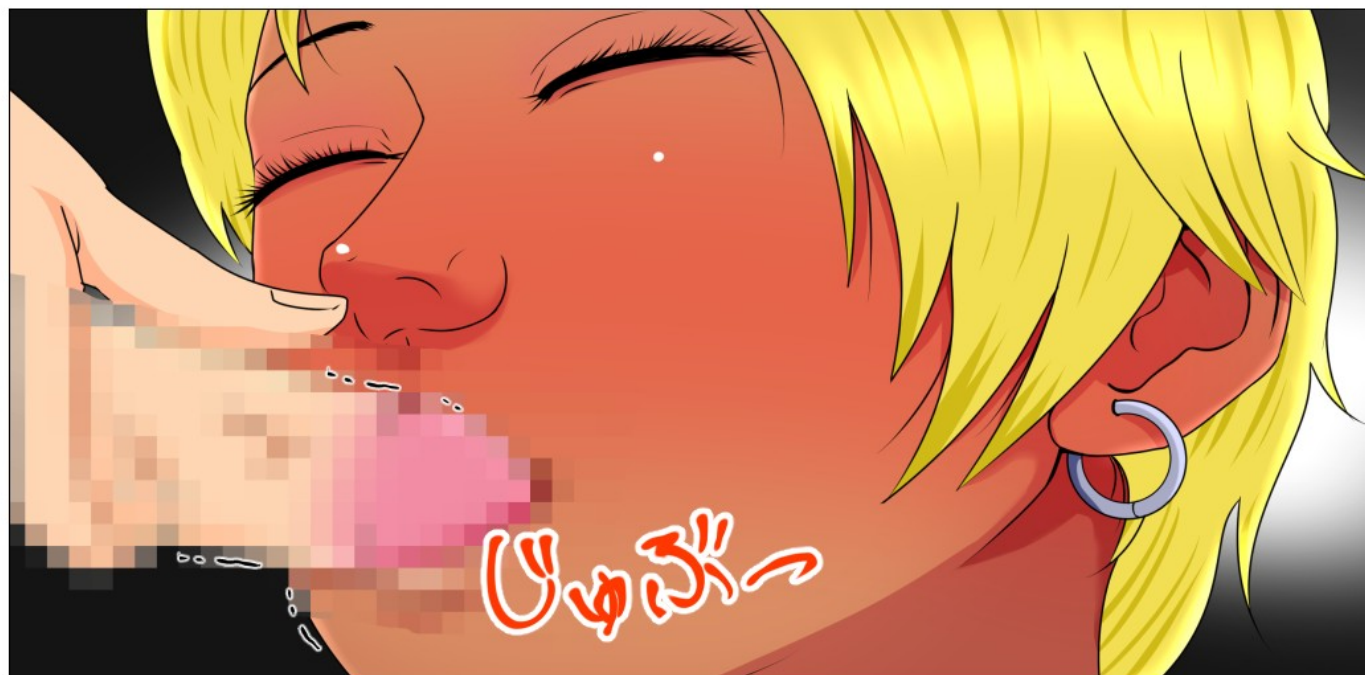


駄目だ。
リスクが高すぎる……

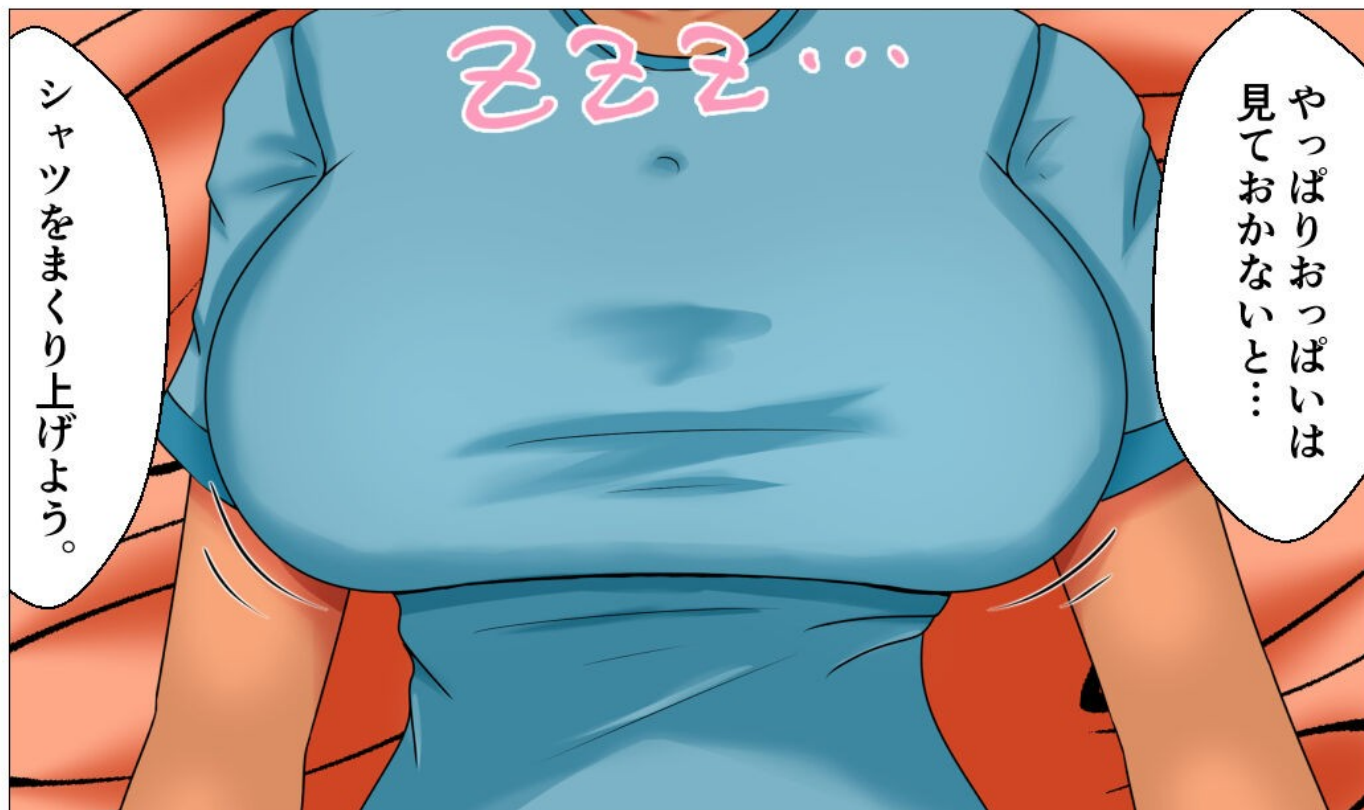


唇に押しつける
程度なら……





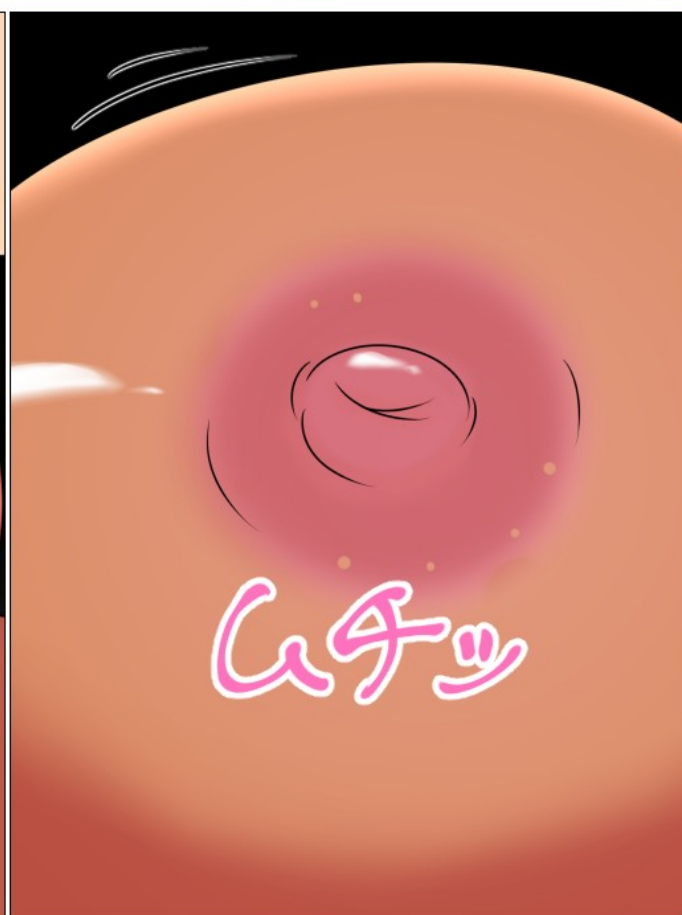


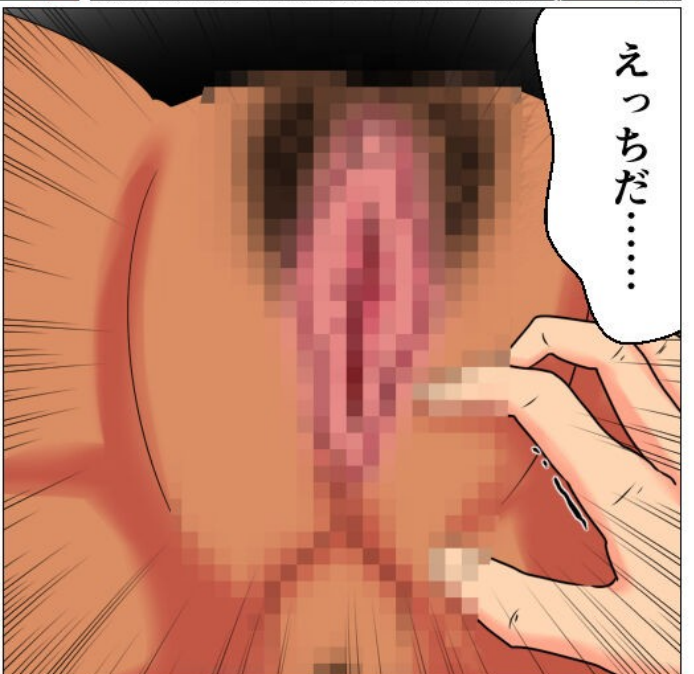


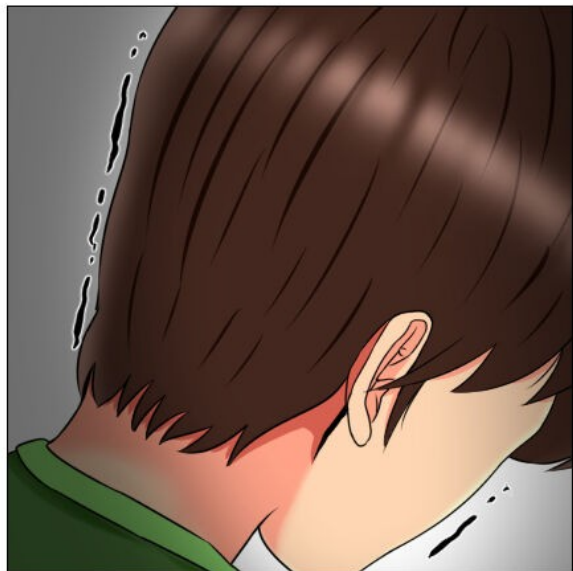
ブラが邪魔だな。
ずらすか。



思った通りの
柔らかさ。
ナタリアの時と同じで
張りが強いな。

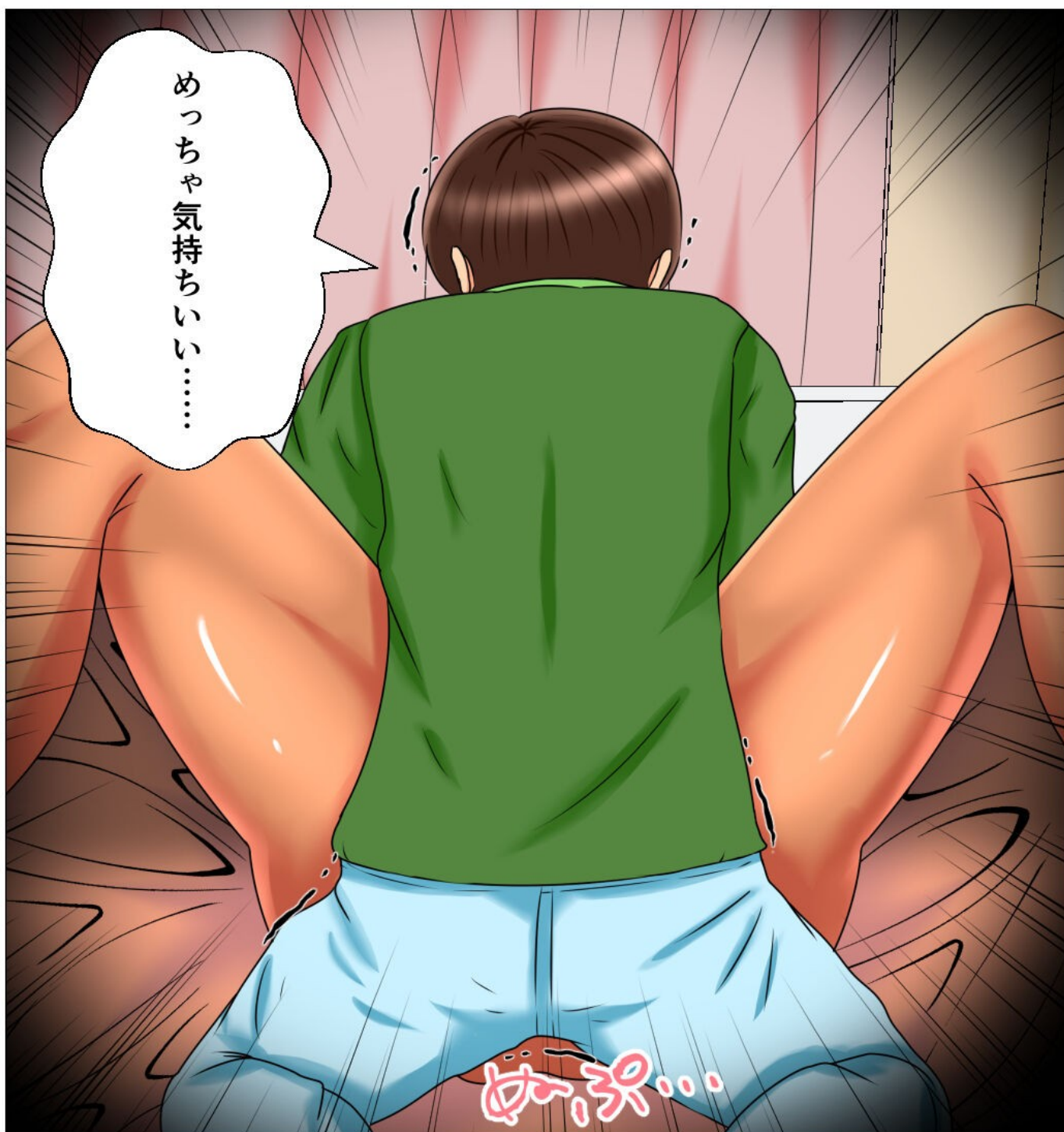






ずるっと入った！

めりめりっ



めっちゃ気持ちいい……

め、め……





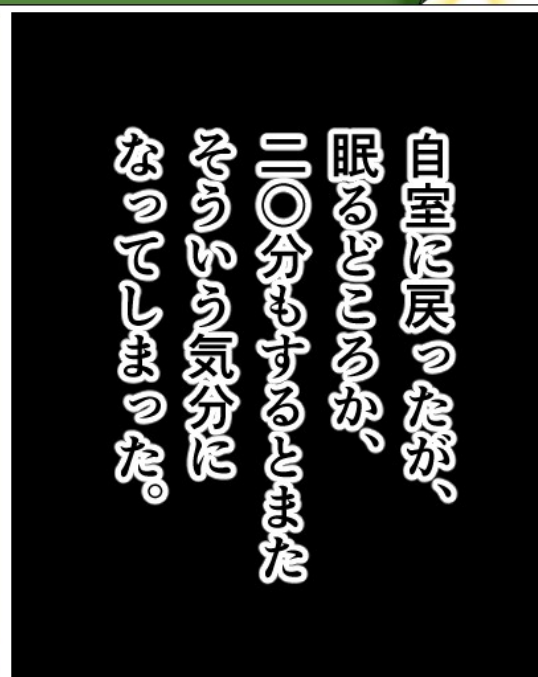
今日はこのまま寝ようかな。
メイファンはまた今度で……



ふう。



よし、毒を食らわば
皿までだ。



自室に戻ったが、
眠るところか、
二〇分もするとまた
そういう気分にな
ってしまった。



メイファンの
部屋には
鍵がかかっていたが
合い鍵で開けた。

香水と化粧品の
におい……

甘ったるいアルコールの
においも……



緊張する……





起きたりしないかな。



メイファン、起きてる？
聞きたいことがあるんだけど。



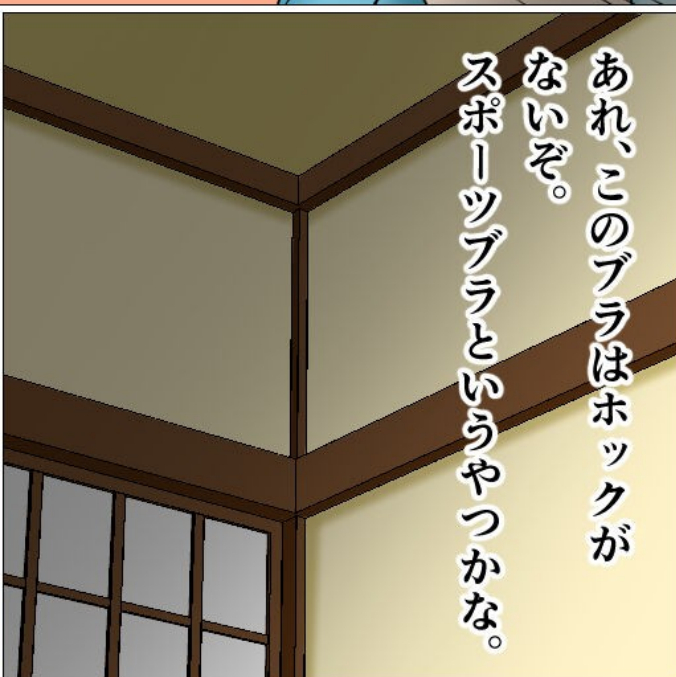
反応なし。
寝てるな。



メイファンって
痩せてるのに
オッパイはデカイんだよね。

ズズズ...



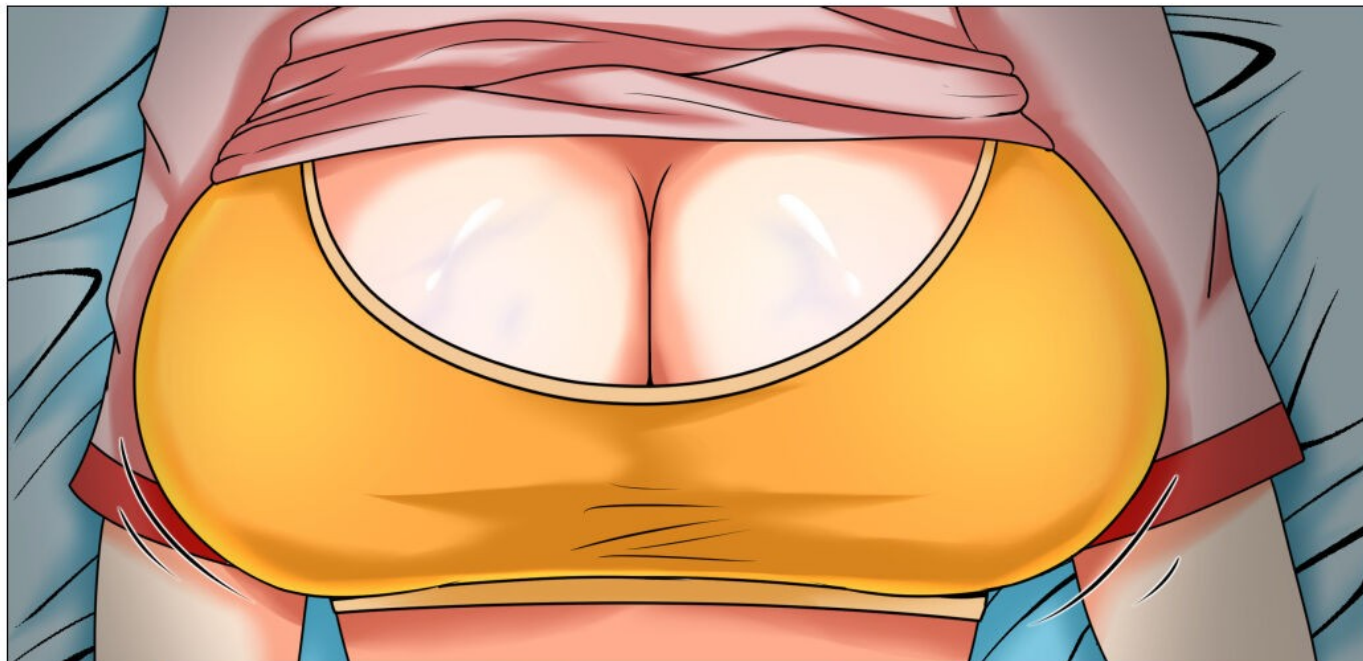






ううむ、しっくりこない。

あ、そうだ、ブラをいったん
元にもどしてー





あ、やべ。
気持ちいい。



とっぴゅっ

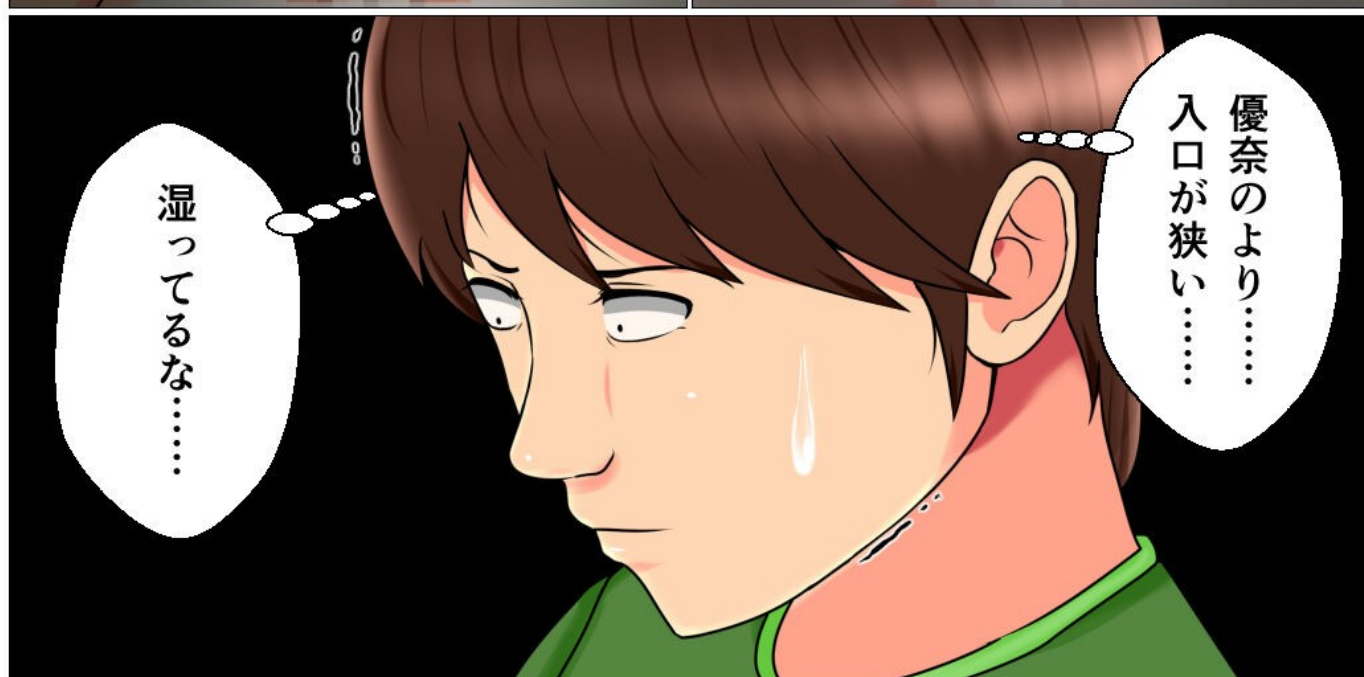
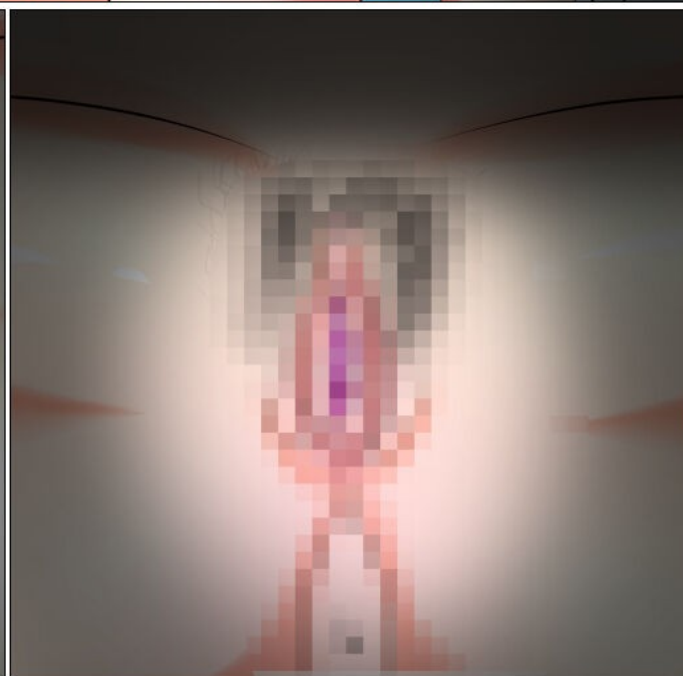
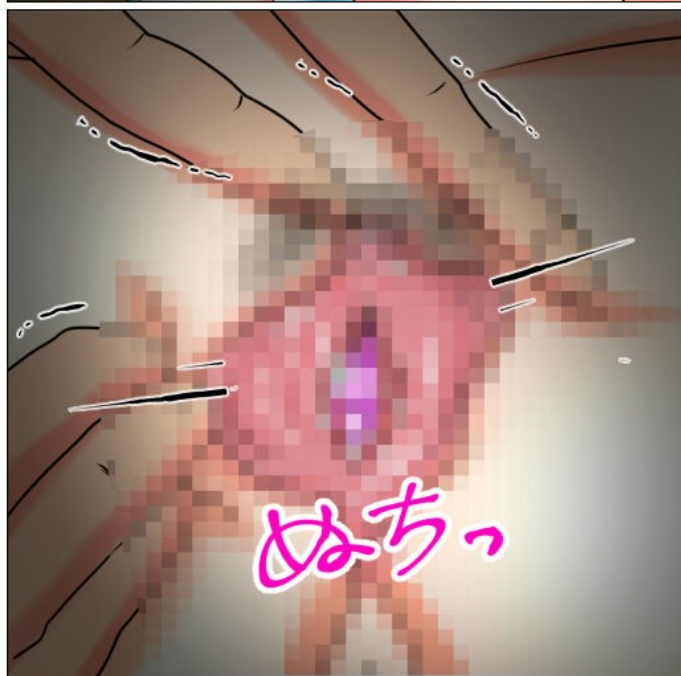


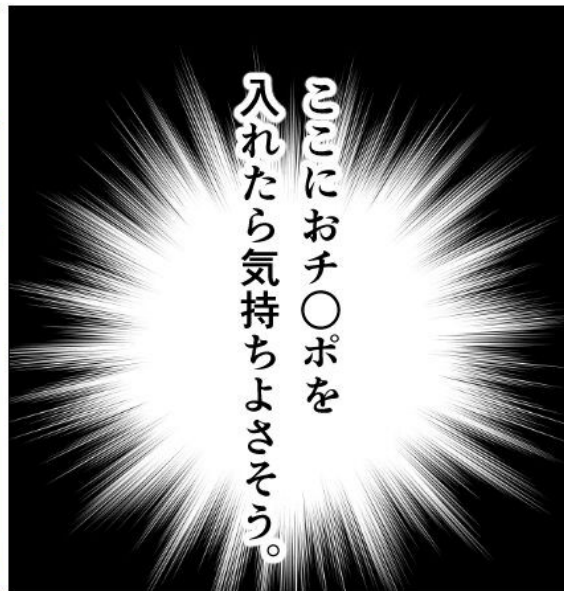
イ、イクっ



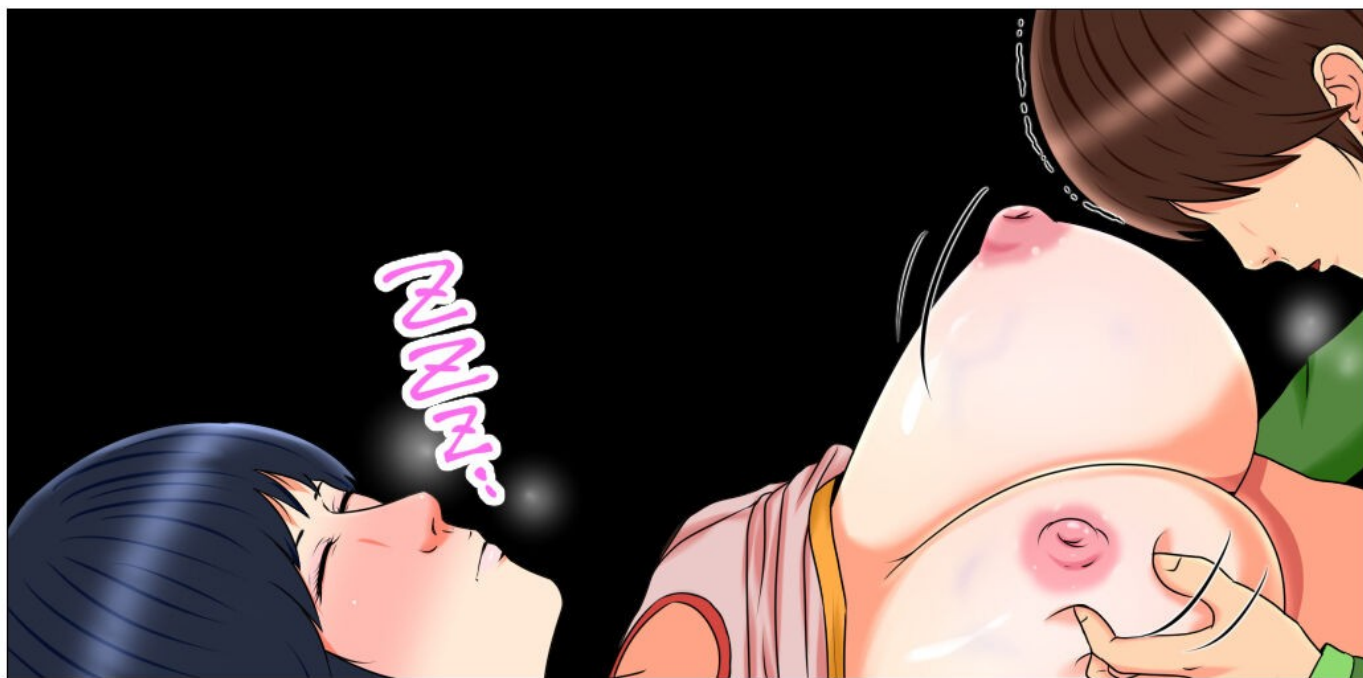
え、こんなに？
さっきも出したのに……











さすがに疲れた……

メイファンのブラやショーツを
適当に元通りにして
洋介は自室に戻った。

ふう……

気持ちよかったな……
と考えている内に
寝入ってしまった。

もう朝か。

……と思ったら
翌日の夕方だった。

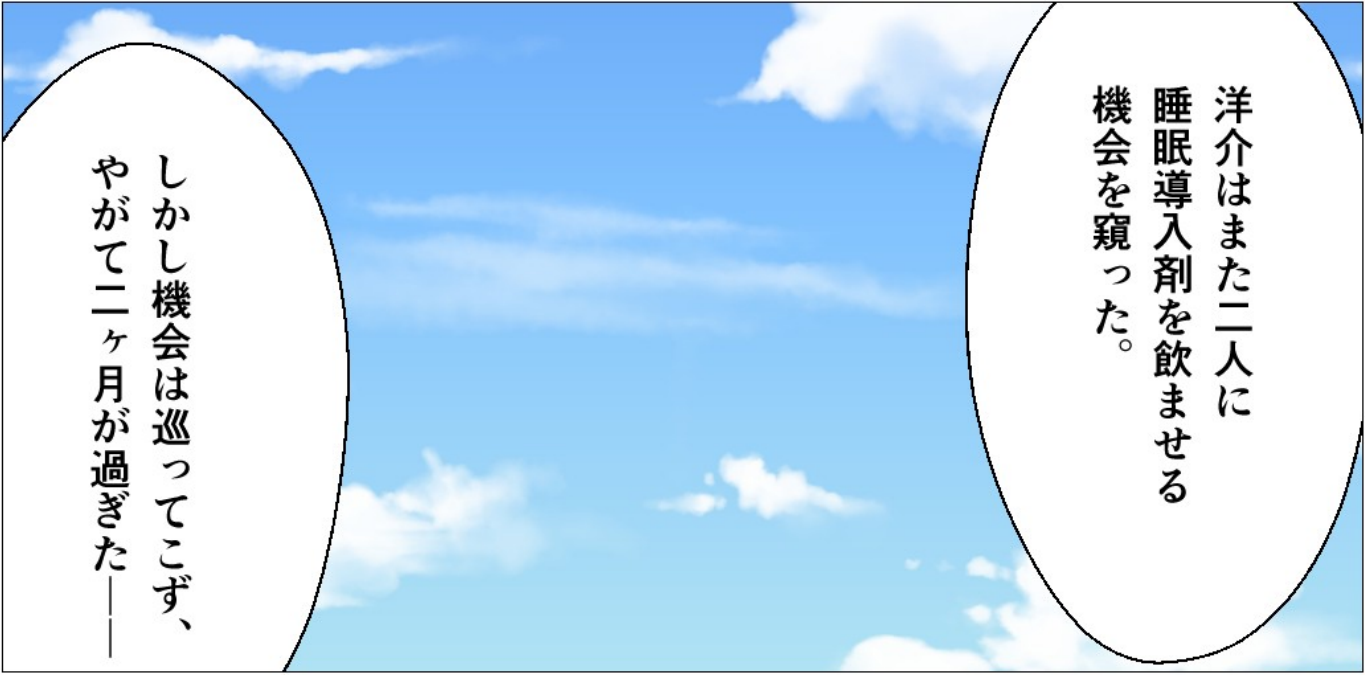
学校が
休みでよかった。

優奈もメイファンも
体調が悪そうだった。

うっふ

睡眠導入剤を飲ませすぎたか。
それとも、お酒と混ざると
やばいのかな？

まあ別にいいけど。



洋介はまた二人に
睡眠導入剤を飲ませる
機会を窺った。

しかし機会は巡ってこず、
やがて二ヶ月が過ぎた――



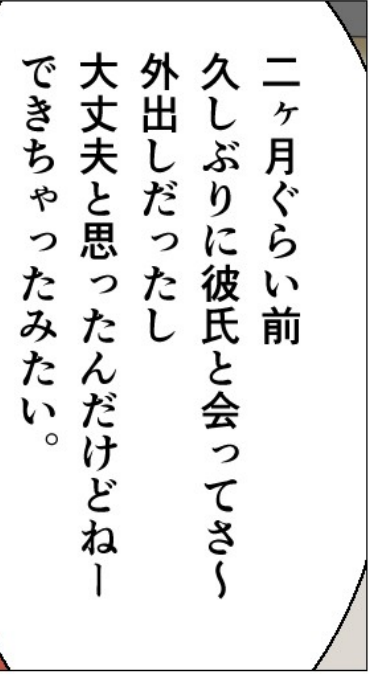
放課後、家に帰ると

キッチンから
優奈とメイファンの声が
聞こえてきた。

何を話してるんだ？



ニンシン？



二ヶ月ぐらい前

久しぶりに彼氏と会ってさー
外出しだったし
大丈夫と思ったんだけどねー
できちゃったみたい。



……

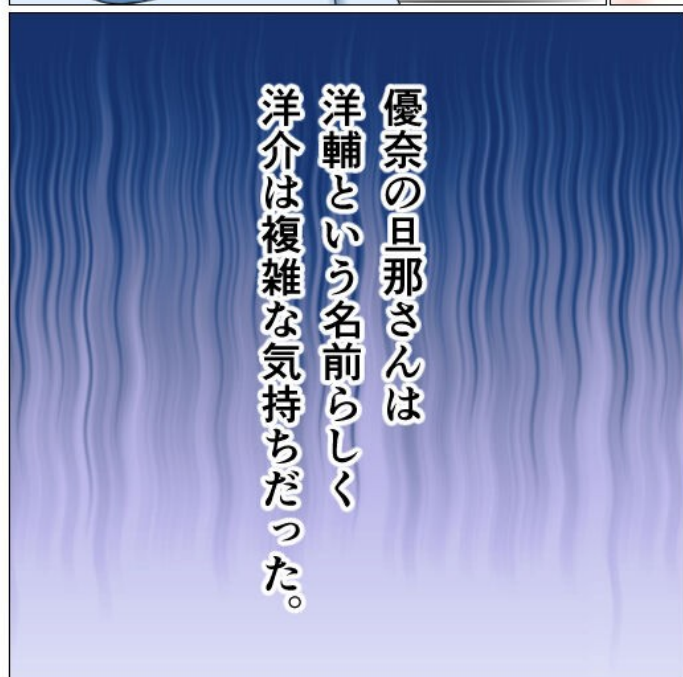
あまり理解
できてない。



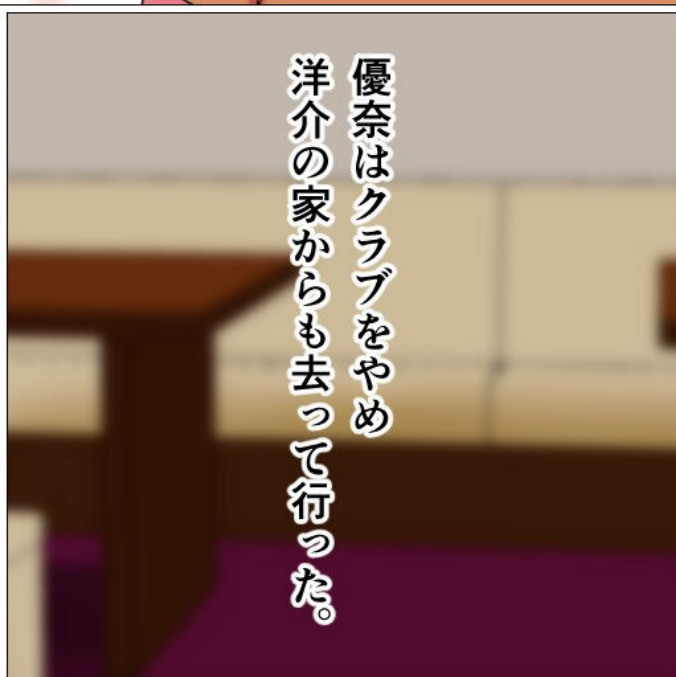
ソウカー



これはもう結婚しろ、
ということだと
思うのよね。



優奈の旦那さんは
洋輔という名前らしく
洋介は複雑な気持ちだった。

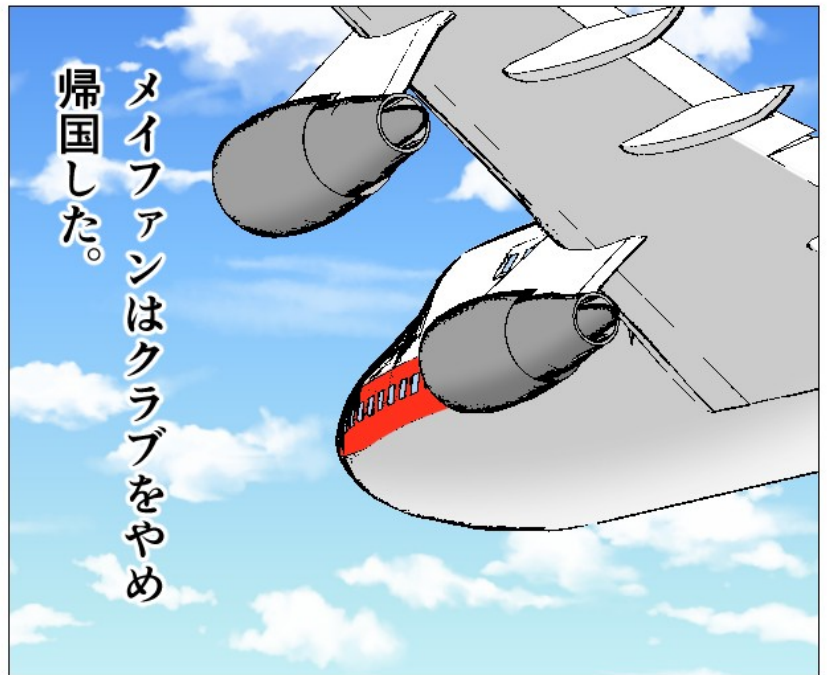


優奈はクラブをやめ
洋介の家からも去って行った。



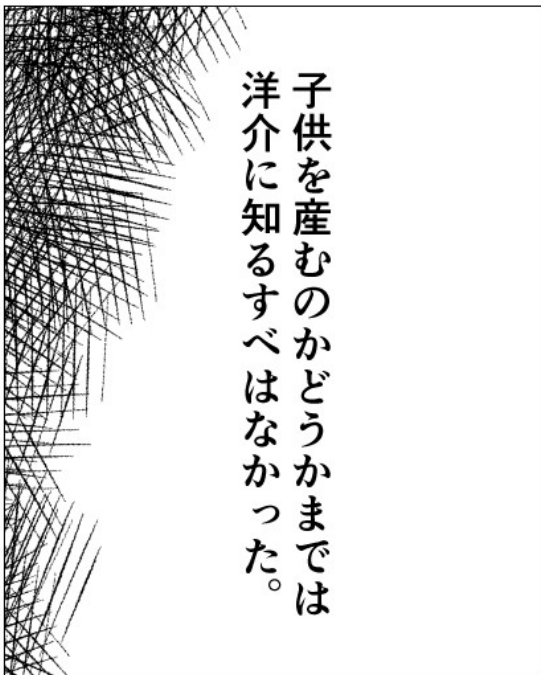
程なくして——
メイファンは体調不良を訴え
受診し、妊娠が発覚した。

妊娠してますね。

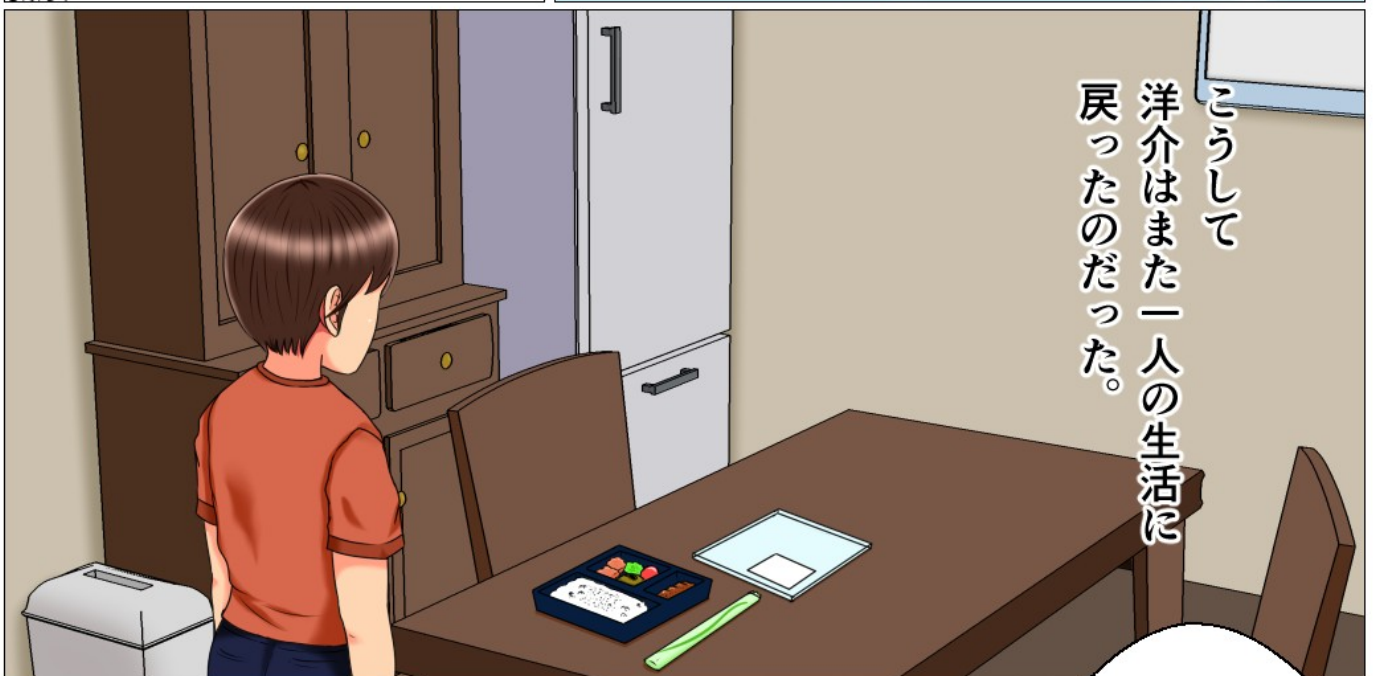


メイファンはクラブをやめ
帰国した。

子供を産むのかどうかまでは
洋介に知るすべはなかった。



こうして
洋介はまた一人の生活に
戻ったのだった。



まあ、そのうち
また、新しいホステスさんが
来るでしょ。

結構うまい











『睡眠姦妊娠』 Vol3「優奈とメイファン」

2018年7月19日	配信開始
2019年4月16日	2版
2021年7月5日	改題、全面改稿

制作：みんなの巨乳党(トリプルC)